

出土遺物



弥生土器



瀬戸・珠洲



中国製 青磁



瓦質土器



銅銭



硯・砥石

高岡市

なかそね

中曽根遺跡説明会

令和2年9月26日(土)

(公財)富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査課



当財団では、令和元年度から一般県道姫野能町線道路改良事業に伴い、富山県土木部から委託を受けて、高岡市中曽根遺跡の発掘調査を実施しています。

中曽根遺跡は庄川右岸の射水平野西部に位置します。当遺跡が立地する高岡市牧野地区は、縄文時代までは水域であったのが、弥生時代からは庄川からの堆積物によって次第に陸地化し、水利のよい土地として水田開発がさかんに行われるようになり、それが現在まで続いています。

令和2年度は、6月から調査を開始し、住居などの居住地はみつかりませんでした。幅1.5～2mの7本の等間隔に並ぶ溝がみつかりました。これらの溝からは、弥生土器や玉未成品、鎌倉時代から室町時代の土器・陶磁器、銅銭などの遺物が出土しています。また、遺跡東端の溝のふちではウマとみられる骨や歯がまとまって出土しました。

高岡市中曾根遺跡

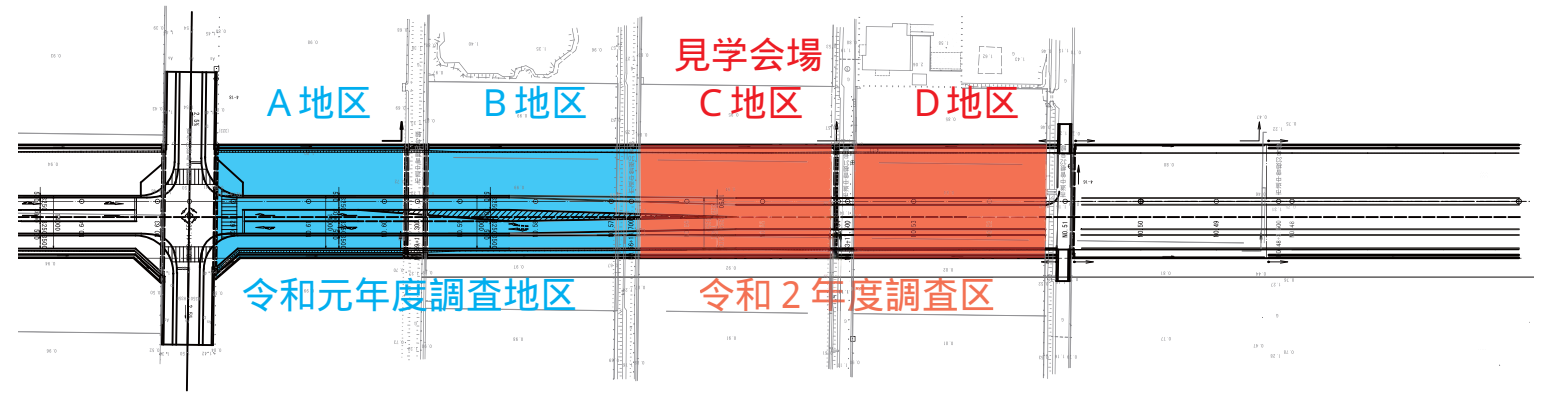
発掘調査面積：3,300 m² (C・D地区)

発掘調査期間：2020年6月19日～9月30日(予定)

遺構検出面標高：約0.8m

遺構：溝 29、穴 52、川跡？ 1

遺物：弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、瀬戸美濃、青磁、白磁、瓦質土器
越中瀬戸、近世陶磁器、銅銭、かんざし、釘、磨製石斧、玉未成品、砥石、
硯、ウマ？の歯、獣骨？



C地区

D地区



■ 等間隔に並ぶ溝 ■ 川?(砂層のひろがり) ■ 歯・骨集中箇所

中曾根遺跡 概略図



C地区 鎌倉～室町時代の溝調査風景



C地区 磨製石斧出土状況



D地区 鎌倉～室町時代の溝



D地区 獣骨? 出土状況